

# 生徒意見陳述

## 高槻南高校廃校等取り消し訴訟第4回公判

### (高南「教育権」訴訟)

#### 1. 3年生女子、体育委員長、ソフトテニス部

私は高槻南高校3年のMです。私は去年の後期と今年の前期の1年間、体育委員長として、生徒会執行部で活動してきました。統廃合が決まって以降、新入生がいない高槻南高校が、そのことによって高南らしい活力や明るさを失ってほしくない、高槻南高校を残したいと願うみんなの力を合わせたい、そんな気持ちで私は体育委員長を引き受けました。私は高南の大きな行事である体育祭のことを中心に話をしたいと思います。

今年の体育祭は2学年になってしまいましたが、ほとんどの生徒がこれまでのような体育祭にしたいと願っていました。執行部も、たくさんの生徒の努力もあって、応援団やデコレーションだけでなく、体育祭の運営でも大変だったけど、何とか高南らしい体育祭ができたと思っています。

私たち執行部の気持ちとしてもうひとつあったことは、この体育祭や文化祭の伝統をせめて槻の木高校の後輩達に引き継いでほしいということでした。そこで槻の木高校の生徒に体育祭や文化祭にきてほしいと申し入れることにしたのです。しかし、教育委員会が伝統を引き継ぐとって再編整備を進め、私たちに協力してほしいと

言ったにもかかわらず、槻の木高校の生徒が高南に公式に足を運ぶことができたのは、たった一度きりでした。それは今年の体育祭に生徒会役員3名が来校したことです。私たち高南生が望んでいたことは、高南の伝統である体育祭でのお昼の応援合戦を槻の木の生徒に見てもらうことでした。しかし、授業があるとの理由で10時には帰されてしまいました。伝統は肌で感じ取らなければ受け継ぐことが出来ないものなのに、高南の生徒は槻の木の生徒に伝統を引き継げる機会を失い、槻の木高校の生徒は高南の見学の機会を与えられず、結局は槻の木高校は高南のような体育祭はしないから応援合戦は見る必要なしということでした。

私は生徒会の役員をしていたので、槻の木の生徒会と今後の交流について話し合う機会を持ちましたが、すでに槻の木高校の行事の予定・形式は決められていて、伝統を継承できる余地はありませんでした。高南の文化祭・体育祭は伝統的に生徒会が中心となって運営しているもので、それを是非受け継いでほしかったのですが、槻の木では生徒たちからの要望があるにもかかわらず、認められていませんでした。

「新校に伝統を受け継ぐから、廃校ではなく統合」という再編整備だったのに、教育委員会のほうに伝統を引き継がせるという姿勢が全く見られません。例えば、現在の高南の2年生が受験生の時に配られた学校紹介のパンフレットには「高南は大変部活動が活発であり、新校と連携をとり部活動の振興を図ります」とありますが、実際に連携している部活動は現在のところソフトテニス部と吹奏楽

部だけなのです。

私はソフトテニス部の部員で、私たちの部はとても苦しい話し合いの末に、高南で一緒に練習することを強く願っていた中学生の後輩たちのために、槻の木高校との合同を決断しました。そして彼女達は槻の木高校に入学し、今、高南で槻の木と合同チームとして活動できています。やっぱり、本当は出来ないはずだったかわいい後輩たちと一緒に練習できてよかったと思っています。高南のクラブ活動のいいところは、不必要な厳しい上下関係がなく、全学年がひとつの目標に向かい、家族のように居心地のいい場所です。高南にはソフトテニス部の他にもたくさんの部が新校と連携で伝統が引き継がれることを望んでいたけれど、その期待は裏切られ、結果として廃部に追い込まれるクラブがたくさん出てきました。

教育委員会は「廃校ではなく統合」だと私たち高南生に言い続けてきましたが、私たちは「やっぱりこれは廃校だ」と痛感しました。今年の4月には先生方の数も激減し、熱心にクラブの監督をしてくださる先生方も多く転勤されてしまいました。来年はさらに減り、高南の特色である授業枠外の進路のための講習会も不可能となる科目が多数でてきます。

このような悲惨な現状を目の当たりにしていく中で、教育委員会の姿勢に対する怒りを抑えることができません。

私たち高南生は新校である槻の木高校の生徒を恨んだり、悪く思ったりしていません。私たちのかわいい後輩であると思いたいのです。私たちはただ愛する母校を教育委員会による納得のいく理由も

なしに取り上げられることが耐えられないのです。「高南がいい学校だから、再編整備します。」なんて理不尽な理由で、本当に私たちが納得できるとでも思っているのでしょうか？ 私たち高南生は駅前で廃校反対署名や、現在行っている裁判の早期の公正判決の署名活動をしていて、たくさんの市民の方々が私たち高南生を応援してくれていることを肌で感じています。高南は今でも市民の皆さんに必要とされているということを感じることができ、すごく大きな心の支えになっています。私たちが母校を守るために必死で集めた16万を超える廃校反対署名が意味する府民の声をしっかり受け止めてください。そしてぜひ裁判所の方には高南に来校して、私たち高南生が直面している「教育委員会の矛盾」をその目で見ていただきたいと思います。

## 2. 3年生男子、男子バスケットボール部

私は高槻南高校3年のUです。私はこの統廃合計画がいかに関わらず私たち高南生につらく悲しい思いをさせてきているか、クラブ活動を中心に話をしたいと思っています。

少し話は本題からずれますが、私の姉と2人の兄も高槻南高校の卒業生です。そんな兄や姉の影響も受けてか、いつしか私も高校生活をここで過ごしたいと思い、高槻南高校に入学しました。高南の中には私のように兄弟で高南生という人も数多くいます。そしてまた、親子で高南生という人もたくさんいま

す。私の担任の先生も高南の卒業生で、母校の高南で教鞭をとっています。もし仮に、嫌な高校生活を送っていたなら、弟や妹や子供に高南への進学を勧めるはずはないと思います。これは、高南での3年間の高校生活が価値あるものだったということではないでしょうか。

さて、クラブ活動ですが、私は3年間バスケットボール部で活動してきました。高南のクラブはどこも先輩・後輩の上下関係がなく、とても仲が良いと思いますが、私たちの男子バスケットボール部もそうでした。しかし、今年は新入生がいないため、部員数は減少してしまい、今の3年生が引退するまでは、3年が8人、2年が3人、合計11人で活動することになりました。そして3年生が引退したらどうするか、とても悩ましい問題をつきつけられていました。2年生の中には「高南のメンバーで、高槻南というチームで試合に出たい」という気持ちが強かったのですが、3年生が引退したら3人だけになってしまうことはわかっていましたから、彼らは本当に悩んだそうです。彼らが出した結論は、バスケットボールが好きだし、クラブを続けたいという素直な気持ちから、槻の木高校と合同したいということでした。

4月に槻の木高校で行われたクラブ紹介には高南生徒会の作ったパンフレットの中に入れてもらいました。また、その後、槻の木高校にバスケットボール部をしたい生徒もいるということも聞かされたので、槻の木高校に合同の申し入れをすることにしました。しかし、いくら待っても何の返事もないのです。なぜ私たちの申し入れに答えてくれなかったのか、今でもその理由はよくわかりません。2年生部員は槻の木との合同の道をあきらめて、3人でもクラブを続けようと頑張っているのです。現在ではそんなクラブの現状をみかねたのか、少し2年生部員が増えているようですが、こんなひどいことがあってよいのでしょうか。

彼らの気持ちはどうなるのですか。

教育委員会は私たちに、「新校のためには君たちの協力が必要」とか「高槻南の伝統を引き継ぐ」とか「統廃合になった学校では合同チームでやっている」と言っていたはずですが、だとすれば私たちの合同の申し入れになぜ応じてくれないのですか。なぜ申し入れが無駄になってしまったのですか。私は一緒にバスケットボールをやってきた仲間として、本当に彼らがかわいそうで仕方ありません。彼らもくやしい思いをしたはずですが、なぜ高南生がこんな悲しい目に合わなければならないのでしょうか。

バスケットボール部以外にも被害を受けているクラブはたくさんあります。ラグビー部・軟式野球部・体操部は、どのクラブもすばらしい実績のあるクラブですが、槻の木高校では作らないと決められてしまいました。軟式野球部と体操部は1学年だけになった今でも頑張っていますが、ラグビー部は8月の大会を終えて、廃部になってしまいました。ラグビー部の3年生は、引退しても、卒業しても、永久に後輩を指導することができないということが、一番悲しいことだと言っています。

私はこういう事態になったのは、教育委員会が「高槻南の伝統を引き継ぐ」と言っただけで、実際にはそのための配慮が全くされておらず、槻の木の側に高南と連携するための態勢が出来ていなかったからだと思います。またそれは私たちの先輩が何度も要求していた「生徒への説明会」が結局実現されなかったために、クラブ活動や生徒会行事など、私たちの高校生活のことが、考慮されなかったのだと思います。このことで受けた2年生の精神的苦痛は計り知れないものです。今の2年生は統廃合という事実を知りながらも高南に入ってきましたが、入学前の説明と現状とは全く違うもので、被害を受けているのは3

年生だけではなく、2年生も同じく辛い思いをしているのです。

槻の木と高南との合同チームが出来なかったことは、約束違反であり、私たちは教育委員会に裏切られたという気持ちでいっぱいです。